

災害篇

映画文学人生論

076) 君の名は	監督：大庭秀雄	原作：菊田一夫
077) ゴジラ	監督：本多猪四郎	原作：香山慈
078) 第五福竜丸	監督：新藤兼人	参考：大石又七
079) 日本沈没	監督：森谷司郎	原作：小松左京
080) ありがとう	監督：万田邦敏	原作：平山譲

災難にあうときは災難にあうがよく候

人間は一生に何度か災害に見舞われる。それは避けられない。とすれば、それに備えた心構えが必要だ。とりあえず、五本の映画を観た。

大庭秀雄 君の名は 菊田一夫

本多猪四郎 ゴジラ 香山慈

新藤兼人 第五福竜丸 (大石又七)

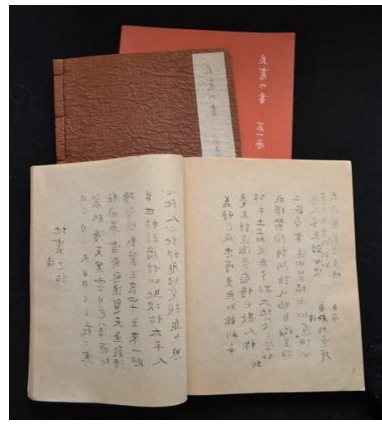
森谷司郎 日本沈没 小松左京

万田邦敏 ありがとう (古市忠夫)

戦争、空襲、テロ、核爆発、放射能、地震、津波、火山爆発、火災、台風、竜巻、ハリケーン、雷、親爺、オヤジ狩り、通り魔、辻斬、強盗、暴力、いじめ、墜落、脱線、衝突などもある。

どのような心構えをすればよいか。まともに考えはじめると、鬱病かパニック障害になってしまうそうだ。『日本沈没』に「このままなんもせんがよい」という案が首相に提出されているが、結局、それでよいのかもしれない。「災難にあうときは災難にあうがよく候。死ぬときは死ぬがよく候。これはこれ災難をまぬがれる妙法にて候」という手紙を良寛は遺している。

しかし、災害で死ねばそれまでのことだが、万一生き残った場合のことも考えておかなければならない。そこで、参考のため、第五福竜丸の生残り乗組員大石又七『死の灰を背負って』と阪神淡



災害篇

映画文学人生論

路大震災の生残りプロゴルファー古市忠夫を主人公とした平山譲『還暦ルーキー』を読んだ。

出る釘はたたかれる。生き残って、著書を出したり、講演をしたり、経験に基づく自分の意見を発信し続けたりして有名人になると、やっかみ半分で、批判されることもあるだろう。しかし、貴重な経験談は人類共通の遺産として共有される価値がある。発信しなければ、誰にも伝わらない。

大石又七と古市忠夫の共通点を考えてみた。二人とも生命力が強く、運が強い。手先が器用で、運動神経が発達している。それに肝心なところで協力者や支援者があらわれるが、これは人を惹きつけ、巻き込んでいく情熱の持主だからこそ、そういう展開になるのにちがいない。

結局、どんな災害に見舞われても、運が強く、生命力の強い誰かは生きのびると思う。奇蹟は起こるのだ。その奇蹟が起こるのは私やあなたにではないかもしれないが、誰かに起こるとしたら、人類の未来については心配しなくてもよい。

それでも、いつかは人類が絶滅し、地球が最後の日を迎える日がくるだろうが、それは人類の運命がその時点で尽きたと、あきらめるしかない。フーテンの寅さんはいう。「天に軌道がある如く、人それぞれに運命を持って生まれ合わせております」。

あすありとみんな思うな原爆忌